

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市井田学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市稲熊町字後田19番地7
施設規模	敷地面積：2025.11㎡ 建物面積：499.25㎡
指定管理者	名称：岡崎市井田学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市稲熊町字後田19番地7 代表者：委員長 水野 武季
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ペットボトルロケット飛行大会
実施内容	ペットボトルロケット作成 AOIフライングクラブ協力 小学校グラウンドにて飛行大会 計測 表彰・景品
実施回数	1回
参加人数(人)	41人 (こども： 16人、おとな： 25人)

(2) 事業実施に対する自己評価

飛行大会実施のリクエストもあり、AOIフライングクラブさんの協力のもと実施。

天候にも恵まれ、100mを超える飛行記録も出た。

学区こどもの家に対する関心を高めるとともに、地域の人々の理解を深める事が出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	357	27210	550	5925	33135

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員と連携を密にして

本年度も多くの児童が来館した。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入		409,000
	その他収入	前年度剰余金	17,461
収入 計			426,461
支 出	直接管理運営費	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	422,634
	(うち修繕費)	※精算項目	107,938
	その他	当期剰余金等	3,827
支出 計			426,461
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕、消耗品の購入等、現場の指導員の先生と連携をし、適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用団体とは連絡をみつにして、要望に対して柔軟に対応した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、苦情対応を行った。

今後も各団体と直接連絡をとりあい、苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市城南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市城南町一丁目5番地1
施設規模	敷地面積：1921.47 m ² 建物面積：499.8 m ²
指定管理者	名称：岡崎市城南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市城南町一丁目5番地1 代表者：委員長 殿井 潔香
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	人形劇団 手風琴によるショー
実施内容	人形劇団 手風琴(酒井利幸氏)による パネルシアターと人形劇 ・てきたものなぞなぞと4本引き(参加賞)
実施回数	1回
参加人数(人)	61人(こども：55人、おとな：6人)

(2) 事業実施に対する自己評価

【一設定音響は出演者がすべて準備、流れるような話術で、パネルシアターが
進み子ども達もひきつけられていた。7人組の合唱では、代表がパーフォ
トを持ち行進して楽しそうだった。上演後の片付けの時に子ども達が感想文
を書き、演者が感激していた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	356	11,157	360	3,825	14,982

(2) 利用状況に対する自己評価

【安全なこどもの遊び場として、指導員がセンター支援員とともに小学校
との連携を築いたことで、本年度も多くの児童が来館した。
大人の利用については、地域に広く認知されており、新規利用の相談
も何件あり、本年度も多くの学区住民による利用があった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入 5年度繰越金	15,328
収入 計 (A + B)			420,328
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	380,640
	(うち修繕費)	※精算項目	14,8810
	その他(D)	当期剰余金等	39,688
支出 計 (C + D)			420,328
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に費用を適切に収支運営することができた。
- ・修繕費を超過し、他の支出内容を精査することで収支の均衡を図れた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・みんなが気持ちよく利用できるより清掃の協力を呼びかけ、環境づくりを努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・人気の本等購入したり、工夫して多種多様な器具、教材の整備に努めた。
- ・利用団体との会議を開催して ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・利用者連絡帳を活用し、意見や改善に対応した。
- ・マナー違反者に苦勞におおむね対応し、苦勞に協力した。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市広幡学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市広幡町 11 番地 13
施設規模	敷地面積：617.82 m ² 建物面積：499.09 m ²
指定管理者	名称：岡崎市広幡学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市広幡町 11 番地 13 代表者：委員長 河口 等
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こども☆家 ワクワクお楽しみ会
実施内容	・クラウン☆トムマジックショー ・まねこダンス) 子供達で体験 ・バルーンアート
実施回数	1 回
参加人数(人)	79 人 (こども：54人、おとな：25人)

(2) 事業実施に対する自己評価

昨年度好評だったクラウン☆トムを招き、マジックやダンス等を体験し楽しめる会になった。付き添いの保護者からも好評を得た。こどもの家に一層関心を持っていただき、地域との交流を深めることが出来た。

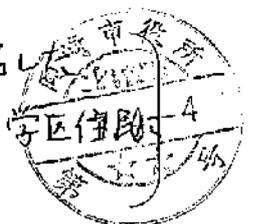
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	321	10,536	429	3,638	14,174

(2) 利用状況に対する自己評価

こどもの安心安全な遊び場として、本年度も多くの児童が来館し、利用団体の他に、地域の行事で利用もあり、本年度も多くの学区住民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入 令和5年度繰越金・預金利息	9,144
収入 計 (A + B)			415,144
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	408,721
	(うち修繕費)	※精算項目	100,000
	その他(D)	当期剰余金等	6,423
支出 計 (C + D)			415,144
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の経年劣化による修繕を要する箇所が増え、修繕費の予算内で済ませることが難しくなってきたが、超過した分は他の支出内容を精査し収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・館内全床の拭き掃除を引き続き毎日実施し、利用者の清潔な環境づくりを努めた。
・施設利用の注意事項等をわかりやすく記した書面を掲示した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・子どもへの「読みたい本」アンケートを継続して行い、参考にして本を購入した。
・利用団体とのノート、ホワイトボード(予定表)の活用により、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・特別な苦情はなかった。常日頃の利用団体とのノート、ホワイトボード(予定表)清掃や会議での意見交換でコミュニケーションを取り、今後も適正な管理運営を心掛けた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市上地学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市上地三丁目32番地2
施設規模	敷地面積：1628.79㎡ 建物面積：499.62㎡
指定管理者	名称：岡崎市上地学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市上地三丁目32番地2 代表者：委員長 杉浦 正司
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	秋の健康スタンプラリー「こどもの家ふれあいデー」
実施内容	健康をテーマに、地域の人にウォークラリーをしながら防災倉庫の見学をしてもらい、各所でスタンプを押しくじりをする。こどもの家で、バスケ、卓球、なわとびけん玉、お絵描きを楽しむ。(景品)
実施回数	1回
参加人数(人)	197人(こども：118人、おとな：79人)

(2) 事業実施に対する自己評価

2年目の行事になるが、今回も盛況で、親子で楽しんでたり、卒業生もこ家を楽しんで遊んでくれて、地域の交流を深める事ができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	349	14,285	494	4,455	18,740

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全な子供の遊ば場として、指導員、センター、小学校との連携を強化したことで、多くの児童が来館した。
・大人の利用については、今年も多くの学区住民の利用があった。

3 収支状況
 (1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	795
	収入 計 (A + B)		407,795
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	404,601
	(うち修繕費)	※精算項目	83,206
	その他(D)	当期剰余金等	3,194
	支出 計 (C + D)		407,795
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入に適切に費用を充て、収支運営を
する事ができた。
- ・子供達が安全に、楽しく活動できるよう、修繕費の超過は、他の収出を
を精査して、均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・施設利用に関して、わかりやすく記した書面を作成し、掲示して、
- ・連絡ノートを作り、意見があれば、記してもらった。
- ・使用後の清掃への協力力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・子どもに人気のゲームを修繕したり、遊び道具も新調したり、設備も
した。
- ・倉庫内の道具や、団体が使用する用具の置き場所等、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・利用車ノートに記された意見には、改善できる範囲で速やかに対
応した。
- ・マナールール違反の利用者には、コミュニケーションをとり、注意をし
理解をしていただいた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市本宿学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市本宿町字下三本松5番地1
施設規模	敷地面積：1164㎡ 建物面積：499.56㎡
指定管理者	名称：岡崎市本宿学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市本宿町字下三本松5番地1 代表者：委員長 佐野 多映
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	3B体操(楽しく運動ふれあひレクリエーション)
実施内容	・ビニールひもを使った体操・なわとび・リレー等 ・バレーン型の道具を使って対抗でのロケット作り
実施回数	1回
参加人数(人)	77人(こども：69人、おとな：8人)

(2) 事業実施に対する自己評価

参加者全員がふれあひレクリエーションを通じて繋がりを持った。又、楽しい時間を過ごした。

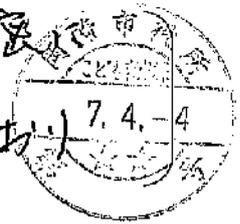
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	308	10,651	296	1,933	13,584

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全な子供の遊び場として、小学校と連携を深めた事で本年度も多くの児童が来館した。
・大人の利用については、地域の方に多く知られており、本年度も多くの学区住民の利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	3,006
	収入 計 (A + B)		407,006
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	401,860
	(うち修繕費)	※精算項目	83,800
	その他(D)	当期剰余金等	5,146
	支出 計 (C + D)		407,006
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て
収支運営する事が出来た。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できる様「来た時より
美しく」を合言葉に使用後の清掃への協力を呼びかけて
清潔な環境作りに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子供に人気の遊具を聞き取りして購入したり、遊具
の整備に努めた。
利用団体との会議を開催してニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見
には、改善できる範囲において速やかに対応した。
利用団体との会議において苦情対応を行った。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市梅園学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市稲熊町四丁目12番地1
施設規模	敷地面積：1440.25 m ² 建物面積：499.11 m ²
指定管理者	名称：岡崎市梅園学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市稲熊町四丁目12番地1 代表者：委員長 受川 定幸
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	クリスマスお楽しみ会
実施内容	・おもちやりり・ホールの入山ゲーム・輪投げ・棒つみ ・射的・サイコロゲーム・ドキンちゃんバイキンマンとシンケンエクスカリバー ・むねおかしおかしり・ホール皿入れゲーム
実施回数	12月11回
参加人数(人)	141人(こども：118人、おとな：23人)

(2) 事業実施に対する自己評価

・金学年から多くの参加がありこども達の笑顔と歓喜の中、楽しくふれあう事が出来た。こどもの家が地域の方々の理解を深める事ができました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	348	20,429	394	4,225	24,654

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全安心、楽しいこどもの憩いの場として指導員や小学校、学区各団体と連携を図り、多くの児童が来館していたを喜ばれた。
・大人の利用については、地域に広く認知されており、学区住民による利用があり、健康促進に貢献できました。

3 収支状況
(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		408,000
	その他収入(B)	雑収入	44,305
収入 計 (A + B)			452,305
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	418,855
	(うち修繕費)	※精算項目	81,172
	その他(D)	当期剰余金等	33,450
支出 計 (C + D)			452,305
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営する事ができた。
- ・夏期の暑熱、換気対策として古い置き型の扇風機をやめ壁掛け扇エロビ-
に切り付けた事で利用者の熱中症対策ができました。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・利用団体、運営委員会、学区各団体が協力し合い館内外の清掃に取組み
清潔な環境づくりに努めました。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・人気の遊具や雑誌を購入したり、工夫して自作したりする等多種多様な
遊具の整備に努め遊ぶ場としての充実を心掛けることと国土のふれあ
いが図られました。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・指導員と連携し利用団体からの意見には改善できる範囲において
速みやかに対応しました。
- ・特別な苦情は無かったが、マナー、ルール違反の利用者にはルール書に
注意を行って理解していただいた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市竜谷学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市桑谷町字1斗目3番地4
施設規模	敷地面積 : 2894.36㎡ 建物面積 : 499.18㎡
指定管理者	名称 : 岡崎市竜谷学区こどもの家運営委員会 所在地 : 岡崎市桑谷町字一斗目3番地4 代表者 : 委員長 山本 実鶴
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいポッチャ大会
実施内容	児童と地域の人達で、スポーツとしてのポッチャを通じ親睦を深める。講師:竜谷学区福祉委員 (試合形式) 児童を地域の人たちとの対抗戦 1セット: 5ゲームマッチ、5コートに分かれて行う
実施回数	1回
参加人数(人)	51人(子ども:27人、おとな:24人)

(2) 事業実施に対する自己評価

日ごろなかなか交流機会が少ない中、今年は児童と地域の人達の交流、親睦を深めるためポッチャ大会を行った。老若男女児童でとても和やかな雰囲気で開催出来た。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	305	4,122	295	2,232	6,354

(2) 利用状況に対する自己評価

子供の安全・安心な遊び場として、館内の清掃消毒を継続推進し、運営委員会と小学校との連携を密にし、昨年同様に多くの学区住民に利用された。

3. 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		402,000
	その他収入 (B)	雑収入	52,508
収入 計 (A+B)			454,508
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	409,398
	(うち修繕費)	※清算項目	94,784
	その他 (D)	当期剰余金等	45,110
支出 計 (C+D)			454,508
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理においては、自己修理完結できる内容は、その都度実施した。
消耗品の購入などは計画的かつ適切に収支運営する事が出来た。

4. その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

日々の清掃や消毒の実施継続と年4回の自主検査を確実に実施し
又、施設利用に於いても分かりやすく、見やすい場所に掲示し、
サービス向上に努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

連絡ノートを活用で利用者からの要望に対応出来た。利用児童からの
声にも耳を傾け、凧作り等新たな工作の推進も行ない、また、休憩を
定期的に取り入れ安全安心な環境づくりに努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

運営委員会との情報交換共有に於いて、連絡ノートを活用し記入された
意見にきちんと対応し、周知徹底が出来た。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作北学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市森越町字山王 45 番地 1
施設規模	敷地面積：1196㎡ 建物面積：499.53㎡
指定管理者	名称：岡崎市矢作北学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市森越町字山王 45 番地 1 代表者：委員長 太田 栄一
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	矢北 こどもの家 まつり 2024
実施内容	・南マジックによる マジックショーと鑑賞 ・マジック教室 ・ジャンケンゲーム
実施回数	1回
参加人数(人)	77人 (子ども: 77人、おとな: 10人)

(2) 事業実施に対する自己評価

普段見ることのない本格的なマジックを間近で見ることが出来た子どもたちにはとても良い経験となった。
ジャンケンゲームには各町の総代も参加し学区こどもの家に対する関心を高めることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	318	10,599	318	4,073	14,672

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や育成センターと連携を密にし、利用者が安心して来館する児童は減ったが大きな事故や問題もなく利用団体への利用不可の日や注意事項等は、事務長よりその度周知して頂いた。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入 前年度繰越金 貯蓄利息 社教委員補助金	6,213 46 20,000
収入 計 (A + B)			432,259
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	426,534
	(うち修繕費)	※精算項目	(96,799)
	その他(D)	当期剰余金等	5,725
支出 計 (C + D)			432,259
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。
社教助成金は、子どもたちが楽しめる玩具や人気のコミックや絵本の購入に
あて有意義に利用した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう 使用後の適宜な清掃への
協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。
利用者が安心安全に利用できるよう 館内の消毒用手指の消毒液を常備した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子どもに人気の遊具を聞き取りして、工夫して自作したりするなど、多種多様な
遊具の整備に努めた。
利用団体との連絡ノートを設置し、会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用者連絡ノートに記入された意見には改善できる範囲に
おいて速やかに対応した。
特別な苦情はなかったが、会議や連絡ノートにより利用者との
コミュニケーションを密にして、今後も苦情の「ない」適正な管理運営を
心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市男川学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市大平町字皿田 6 番地 2
施設規模	敷地面積：1051.69 m ² 建物面積：499.74 m ²
指定管理者	名称：岡崎市男川学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市大平町字皿田 6 番地 2 代表者：委員長 小林 勇
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	男川学区こどもの家 ふれあり祭り
実施内容	・ペットボトル ボーリング ・景品フリゲーム ・紙飛行機 ・ビュッゲーム
実施回数	1 回
参加人数 (人)	87 人 (こども：76 人、おとな：11 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもと大人がふれあいを通じて、世代を超えた地域の繋がりを
生みかけとなった。

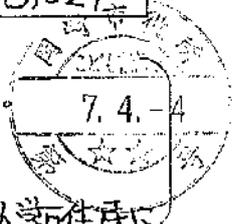
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	331	24,003	422	4,018	28,021

(2) 利用状況に対する自己評価

・安全なこどもの遊び場として、本年度も多くの児童が来館した。
・大人利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	0
収入 計 (A + B)			407,000
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	407,000
	(うち修繕費)	※精算項目	160,666
	その他(D)	当期剰余金等	0
支出 計 (C + D)			407,000
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

急を要する修繕が心算と別、本年度は修繕費を超過したが、
他の支出内容を精査することにより収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者のみならず気持ちよく利用できるよう、使用後の清掃への
協力を呼びかけた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・子どもに人気の遊具を聞き取り購入したり、工夫して自作したりした。
- ・利用団体との会議を開き、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・マナー、ルール違反の利用者にその場で注意をし、理解してもらった。
- ・利用団体との会議を開き、苦情対応を行った。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六名学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市上六名三丁目3番地7
施設規模	敷地面積：885.61㎡ 建物面積：499.1㎡
指定管理者	名称：岡崎市六名学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市上六名三丁目3番地7 代表者：委員長 伊藤 公一
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	六名学区ファミリーフェス(お楽しみ会、ふれあい事業)
実施内容	・六名小学校 ドッジビー、モルック、ニチレク ・こどもの家 紙飛行機を作って飛ばそう、干本引き
実施回数	1回
参加人数(人)	138人(こども：92人、おとな：46人)

(2) 事業実施に対する自己評価

六名小学校の社教及びPTAの方々と協力しあい行うことができた。児童たちも楽しそうに参加していた。

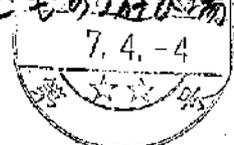
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	306	13676	399	3241	16917

(2) 利用状況に対する自己評価

現場の指導員とセンターの支援員の連携はもちろん、小学校や地域の方のご協力のおかげで、安心安全なこどもの遊び場として定着し、本年度も多くの児童が来館した。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	14,454
収入 計 (A + B)			420,454
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	400,825
	(うち修繕費)	※精算項目	125,800
	その他(D)	当期剰余金等	19,629
支出 計 (C + D)			420,454
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て
収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

安全かつ心地良く利用していただくことを心がけ、ホワイトボードに
スケジュールを明記、掲示することで連絡を密にした。
施設内外の清掃、草取り、ゴミ出しなど常に清潔に保つことができた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・こどもに大人気のシリーズ本や放課後こども教室に必要な材料
を購入したり、こどもたちがより楽しめるように工夫を凝らし遊具
の充実・整備に努めた。・回覧版を利用して新規団体の
受け入れをした。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には、改善
できる範囲において速やかに対応した。
・利用団体代表者会議を開催して、マナー・ルールの遵守を
お願いした。
・今後も利用者とのコミュニケーションを密にして適正な管理
運営を心掛けた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市竜美丘学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市竜美東一丁目10番地1
施設の規模	敷地面積:1616.94㎡ 建物面積:499.4㎡
指定管理者	名称 岡崎市竜美丘学区こどもの家運営委員会 所在地 岡崎市竜美東一丁目10番地1 代表者 委員長 山田 昌生
指定期間	令和4年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1)実施状況

実施事業名	こどもの家ふれあいフェスティバル
実施内容	◆人形劇鑑賞 ◆おしるこの振る舞い ◆牛乳パックで風車作り ◆お菓子配布 ◆雪だるまとクリスマスツリーのポップアップカード作り
実施回数	1回
参加人員(人)	子ども55人 大人22人 合計77人

(2)事業実施に対する自己評価

- コロナ感染も第5類の移行にともない令和6年度は感染防止に配慮しながら開催し学区諸団体とのふれあいが出来ました。

2 施設の利用状況

(1)利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	337	15,533	316	2,847	18,380

(2)利用状況に対する自己評価

- 安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。
- 大人の利用も昨年度とほぼ同じレベルの利用で健康維持に活用されている。



3 収支状況

(1) 収支状況

項目		内訳	決算額(円)
	前期繰越		11,955
収入	指定管理料収入		406,000
	その他収入	竜美丘学区社教委員会より	15,000
収入 計			432,955
支出	直接管理運営費	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	432,955
	(うち修繕費)	※清算項目	(84,169)
	その他	当期剰余金等	0
支出 計			432,955
差引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

備品の修理交換、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他の自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 利用者が気持ちよく利用できるよう、使用後の清掃を周知し清潔な環境づくりに努めました。
- 施設利用に関し利用条件を記した書面を配布、周知いたしました

(2) 利用者ニーズ把握に対する自己評価

- こどもに人気の書籍や遊具を聞き取りして購入したり、工夫して自作したりして多種多様な遊具等の整備に努めました。
- 利用団体の要望を聞き、ニーズ把握を心掛けました。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- 指導員と連携し、利用者の意見には、改善できる範囲ですみやかに対応しました。
- マナー、ルール違反の利用者には、即時、注意警告し理解をしていただいた。
- 近隣への騒音対策として今年度も夜間利用を10～3月に限定いたしました。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市生平学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市生平町字鷺場 38 番地
施設規模	敷地面積：1379.33 m ² 建物面積：499.6 m ²
指定管理者	名称：岡崎市生平学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市生平町字鷺場 38 番地 代表者：委員長 長坂 健司
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいレクリエーション大会
実施内容	ドッジボール、こどもの家先立のマス、ボール入れ、けん玉、フラスコ 随時脳ジグソー、ルービックキューブ、シタルラ、折り紙、レクリエーション (ゲーム大会もれて遊びました。)
実施回数	1 回
参加人数 (人)	61 人 (子ども：46 人、おとな：15 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもの家指導員と児童会の協賛により

学区全体で多くのゲームにチャレンジした。

和交ふれあひとした雰囲気の中、笑顔いっぱい楽しく時を過ごした。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	266	4104	150	1538	5642

(2) 利用状況に対する自己評価

安全・安心な居場所として指導員間や小学校との連携を
密に行う事で子供たちが楽しく遊べる事ができた。
大人の利用について、地域或に広く認知されており
多くの住民により利用があった。登録団体も前年より増加した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		402,000
	その他収入 (B)	雑収入	145,709
	収入 計 (A + B)		547,709
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	447,089
	(うち修繕費)	※精算項目	127,592
	その他 (D)	当期剰余金等	100,620
	支出 計 (C + D)		547,709
	差 引		0

預金
利息金

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て
収支運営が好転ができた。
急を要するトイレの修繕費が必要となり、本年度の修繕費が超過した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が皆気持ちよく利用できるように、必要なものに用品を
設置し、清潔な環境作りを努めた。
施設利用者からの要望等が常に聞ける様、連絡手段を活用した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子供に人気の遊具を本年にも購入したり、遊具の点検、修理を行い
整備に努めた。
利用者からのニーズを把握し、必要な器具の充実を図った。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用ノートに記入された意見、要望を運営委員会
にて共有し、速やかに対応した。
特別な苦情は無いが、利用ノートよりコミュニケーションを
密にして、今後も苦情の無いよう適切に管理運営を心がけた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作西学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市宇頭町字才六1番地5
施設規模	敷地面積：915㎡ 建物面積：499.4㎡
指定管理者	名称：岡崎市矢作西学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市宇頭町字才六1番地5 代表者：委員長 山田 博信
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家ふれあい祭り
実施内容	・ワークショップ 金属磨き・レジン製作
実施回数	1回
参加人数(人)	24人(こども：12人、おとな：12人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもと大人のふれあいを通じて、世代を超えた地域の繋がりを生むきっかけとなった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	346	5,935	490	4,678	10,613

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことにより、本年度も多くの児童が来館した。
- ・大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区市民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入	114,088
収入 計 (A + B)			519,088
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	518,964
	(うち修繕費)	※精算項目	(181,500)
	その他(D)	当期剰余金等	124,
支出 計 (C + D)			519,088
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後および適宜な時期に清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。
- ・施設利用に関して、わかりやすく記した案内板を作成した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもに人気の遊具を聞き取りして購入したり、工夫して自作したりするなど、多種多様な遊具の整備に努めた。
- ・利用者ノートを活用して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には、改善できる範囲において速やかに対応した。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六ツ美中部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市下青野町字法京 54 番地
施設規模	敷地面積：1996 m ² 建物面積：499.2 m ²
指定管理者	名称：岡崎市六ツ美中部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市下青野町字法京 54 番地 代表者：委員長 野田 保男
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	マニツクショー
実施内容	カード、トランプ マニツク等
実施回数	1回
参加人数(人)	45人 (子ども: 33人、おとな: 12人)

(2) 事業実施に対する自己評価

雨が降っていたので参加人数が少なうかと思いましたが、昨年と引き継いでの実施だったので、多くの方に参加頂けて良かったです。

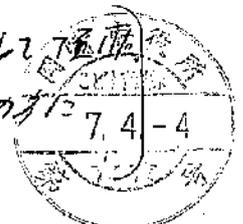
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	350	4785	343	4386	9171

(2) 利用状況に対する自己評価

・飯田町の子ども達や地域の親子連れ等、幅広く利用して頂戴。
・大人の方も団体利用の方の人数も増え、本年度も多くの方に利用して頂けた。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	71,211
	収入 計 (A + B)		415,211
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	408,270
	(うち修繕費)	※精算項目	115,054
	その他(D)	当期剰余金等	6,941
	支出 計 (C + D)		415,211
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

・施設の修繕、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営出来たが、昨今の物価高の影響もあり、年々財政は苦しくなっている。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・利用団体名簿を作成し、利用者との密な連絡で双方の信頼関係を築いている

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・利用者代表会議を年3回行い、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見は、速やかに対応した。

・利用団体との会議を開催して、苦情対応を行った。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市六ツ美北部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市井内町字風見54番地
施設規模	敷地面積：1982 m ² 建物面積：499.88 m ²
指定管理者	名称：岡崎市六ツ美北部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市井内町字風見54番地 代表者：委員長 畔柳 強
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業 クリスマス会
実施内容	・12月19日(木) ・サンタ登場 バルーンショー ・クリスマス会 参加者プレゼント
実施回数	1回
参加人数(人)	88人(こども：76人、おとな：12人)

(2) 事業実施に対する自己評価

・バルーンショーでは、ヒーローが登場し、子どもたちは大変好評であった。
・サンタの衣装を準備して、プレゼントをわたすことができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	352	18,150	489	4,605	22,755

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、指導員、育成センター、小学校との連携をとり、活動をすすめた。小人の利用人数は、昨年と同程度であり、大人の利用人数は、1,300人ほど増えている。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	5,076-
収入 計 (A + B)			412,076-
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	406,451-
	(うち修繕費)	※精算項目	89,100-
	その他(D)	当期剰余金等	5,625
支出 計 (C + D)			412,076-
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営ができた。
- ・ふれあい活動を12月に実施でき、クリスマス会の参加賞にも支出した。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・こどもの家利用団体グループラインを活用し、連絡等を周知できた。
- ・利用団体の館内奉仕清掃は、年2回実施した。
- ・2月に利用団体の代表者会議を開き、利用者の要望等を聞いた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもが活用できる遊具の購入計画を立て、多様な遊具の整備に努めた。
- ・利用団体との連絡は、利用者ノートと利用団体グループラインを活用した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・利用団体の使用メーヤ使用後の清掃等にかた、グループラインを活用して連絡等ができた。
- ・利用団体の休みの連絡も、ラインを活用できた。
- ・特別な苦情はなかったが、ライン等で連絡をとり、苦情のない運営に努めた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市岡崎学区こどもの家
施設の設置目的、 役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市針崎町字大坪 10 番地 7
施設規模	敷地面積：1396.17 m ² 建物面積：499.6 m ²
指定管理者	名称：岡崎市岡崎学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市針崎町字大坪 10 番地 7 代表者：委員長 加藤 政幸
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	パレンアート「ヒビネズミ」 作ってあそぼう
実施内容	パレンアート作品の紹介、作り手の工程をみせて、子ども達から教わりながら、作品を作り、飛ばして遊ぶ!
実施回数	1 回
参加人数 (人)	93 人 (子ども: 85 人, おとな: 8 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

講師のテカピエロに扮して、子ども達の興味を引きつける、パレンアートを作ってみせてくれて、自分たちもパレン作りをして、作品を飛ばして楽しく遊べた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	350	10,732	390	3609 3607	14341

(2) 利用状況に対する自己評価

大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	31,599 31,599
収入 計 (A + B)			437,599
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	- 420,143
	(うち修繕費)	※精算項目	87,450
	その他(D)	当期剰余金等	17,456
支出 計 (C + D)			437,599
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を
充て収支運営する事ができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるように、
使用後の清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境
づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し、利用者ノートに記入された意見には、
改善できる範囲において速やかに対応した。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市連尺学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市城北町4番地1
施設規模	敷地面積：713.43㎡ 建物面積：499.3㎡
指定管理者	名称：岡崎市連尺学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市城北町4番地1 代表者：委員長 斎藤 理彦
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	連尺こまつり
実施内容	子ども会と共同で行うイベントで学校→こどもの家をめぐり 色々なミッションを体験していく。こどもの家は、ハロウィンが 近いこともあり、おぼけ祭りゲームを行った。
実施回数	1回
参加人数(人)	250人(子ども：220人、おとな：30人)

(2) 事業実施に対する自己評価

子ども会は本年度で活動を終えるので最後の連尺こまつりだった。それぞれ連携して
児童が安全にイベントを楽しめるように早くから準備してきたおかげで好評だった。
来年度も新着の地域と連携をとり、わくわくするような事業を準備する予定である。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	335	9949	335	3237	13186

(2) 利用状況に対する自己評価

大きな問題、けがもなく、無事に一年間終える事ができた。
育成センター、学校の連携を密にし、安全で楽しい遊び場所となるように心がけた。
衛生、安全面に好評で、情報収集を行い、利用者が安心して利用できるようにした。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	64,896
収入 計 (A + B)			470,896
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	424,352
	(うち修繕費)	※精算項目	98,926
	その他(D)	当期剰余金等	46,544
支出 計 (C + D)			470,896
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入は、ほぼ適切に充てる事ができた。
買った品物は必ず指導員同志がチェックするようにした。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

倉庫内の整理を定期的に行い清潔で利用しやすい環境作りに努めた。
子どもが利用しやすい備品を取り揃えた事により、安全に遊ぶ事ができるようにした。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 幅広い学年の児童の利用があるため、共通しやすいルール作り、掲示を心がけた。
- 団体向けにLINEの公式アカウントを作成し速やかにかつおねのほいほいに連絡を行えるようにした。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員全員が共通の認識をもって対応する事、ノートを利用し、情報交換し、不明な点や心配事があれば速やかに育成課へ指示をあたき、解決するようにかけた。

苦情があった際は、今後とも真摯に対応していきたい。

令和6年度 事業報告書

公の施設名称	岡崎市山中学区こどもの家
施設の設置目的・役割	学区内におけるこどもの健全育成と学区民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市山綱町字天神2番地1
施設規模	敷地面積:1695.70㎡ 建物面積:499.33㎡
指定管理者	名称:岡崎市山中学区こどもの家運営委員会 所在地:岡崎市山綱町字天神2番地1 代表者:明保 芳和
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業: こどもの家祭りとクリスマス会
実施内容	1. 大ビンゴゲーム大会 2. じゃんけんゲーム大会(じゃんけん列車) 3. 紙コップリレー
実施回数	1 回
参加人数(人)	179 人 (こども ; 159人、大人 : 20人)

(2) 事業実施に対する自己評価

- ・ 昨年に続き、クリスマス会を開催をしました。
子どもたちが大勢参加し、ゲームを楽しむことができた。
参加賞でお菓子の詰め合わせをプレゼントしました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数	小人	大人人数		利用人数合計
	(日)	利用人数(A)	回数	人数(B)	(A) + (B)
合計	312	7,496	404	4,287	11,783

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・ 一般利用の児童にも、放課後のこども教室にて工作などの遊びに工夫しました。
そして、事故やケガもなく安全に過ごすことが出来ました
- ・ 利用団体においても、利用の決まりを守り清掃にも協力的に参加して頂きました。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項 目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)	岡崎市こども育成課より	405,000
	その他収入(B)	雑収入(令和5年度繰越金・利子)	77,510
収 入 計 (A + B)			482,510
支 出	直接管理運営費(C)	人件費・事務費・消耗品費 ふれあい事業費・修繕費	422,875
	(うち修繕費)	※精算項目	88,368
	その他(D)	当期余剰金等	59,635
支 出 計 (C + D)			482,510
差 引			0

(2) 収支状況に対する評価自己

- ・ 事務用品・工作材料費など、適切に収支運営することができた。
- ・ 来年度、図書室のブラインド交換予定の為、支出を節約し繰越金の額を増やすようにしました。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する評価自己

- ・ 玄関にレンタルマットで常に清潔を心掛けました。掲示物は、季節ごとに工夫を凝らし、楽しくできるよう環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する評価

- ・ 利用団体の会議を開催し、意見交換をする事ができた。
- ・ 子供たちの意見をよく聞くことを心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・ 利用児童の保護者からの質問に対して、丁寧に対応できた。
- ・ 利用団体の要望(祝日利用について)は、事務長と相談して解決することができた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市岩津学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市岩津町字東山 18 番地 4
施設規模	敷地面積：1057.77㎡ 建物面積：499.2㎡
指定管理者	名称：岡崎市岩津学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市岩津町字東山 18 番地 4 代表者：委員長 岩瀬 正生
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1. 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	トムさんのマジックショーと大抽選会
実施内容	クラウン☆トム(小坂茂哉氏)によるパフォーマンス ①トムさんのマジックショー②ハンカチ作品(ステージにて全員参加) ③ハルーンアート作り(全員体験型) ・大抽選会(運営委員長読み上げ) 全員参加賞
実施回数	1回
参加人数(人)	125人(こども:105人、おとな:20人)

(2) 事業実施に対する自己評価

子供連全員がステージに上りハンカチ作品を作り、ハルーンアートを作っている中でトムさんに驚きつけられ、この間にか会場全体の熱気に包まれていた。又、抽選会では子供連のワクワクドキドキ感が表情から見てこの指導員も勝ち負けの運成感が得られた。ただ抽選会に思いの他、時間がとれず予定時刻より延長したので次回工夫したい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計					

(2) 利用状況に対する自己評価

夏は酷暑の為レク室が連日35℃以上の日が続き使用不可と化した為、来館の回数が減ってしまつたのが残念だった。センターは図書室のみの利用で時間を来館があった。
7.4-4
大人の利用については酷暑ではあったが夜の利用あり、多くの団体がレク室を利用した。使用後もきちんと清掃、整頓ができてきかに使用してもらった。

3. 収支状況

(1). 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入 (繰越金+通帳利息)	5,205
収入 計 (A + B)			410,205
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	403,885
	(うち修繕費)	※精算項目	103,396
	その他(D)	当期剰余金等	6,320
支出 計 (C + D)			410,205
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

・施設の修理、消耗品の購入等はほぼ適切に費用に充てる様
心掛けたが少額な繰越金も出た。
・修繕費については、年末に掃除器が故障した為調整し超過した。

4. その他自己評価

(1). 利用者へのサービスに対する自己評価

・利用者が気持ち良く利用できるよう、利用後の片付け、清掃への協力を
お願いし年末大掃除後のミーティングにて呼びかけお願いをした。
・カウンターに連絡ボードを置き、利用者と常時意思疎通の出来るようにした。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・子供達が安全に楽しめるよう常に遊具の故障とチェックし整備に努めた。
・人数が多い時は場所、時間を制限し事故の防止に心掛けた。平等かつ安全に
楽しめるよう見守りをした。その為にルールの中でいかに自由行動を認める
かに留意し「楽しい思い出」になるよう努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員3名が常に密に情報を交換し、苦情や諸問題が
発生した時は、早急かつ冷静に対応、対処できた。
・今年度は特別な苦情は無かったが、今後も苦情が出る事の無い
よう適正な管理運営を心掛けた。

令和6年度 事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市大和町字西島61番地1
施設規模	敷地面積：1316㎡ 建物面積：499.02㎡
指定管理者	名称：岡崎市矢作南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市大和町字西島61番地1 代表者：委員長 江坂 進
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい祭り
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コロコロゲーム ・吹き矢的をあてる ・自転車シュミレーター ・ミニカーレース
実施回数	2 回
参加人数(人)	169 人(こども：126人、おとな：43人)

(2) 事業実施に対する自己評価

学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

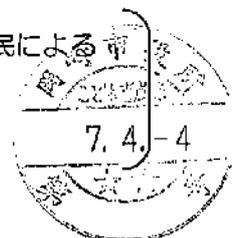
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	349	15,636	409	5,469	21,105

(2) 利用状況に対する自己評価

大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

項目		内訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	14,283
収入計(A+B)			421,283
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費 コロナ対策費、修繕費	402,794
	(うち修繕費)	※精算項目	109,450
	その他(D)	当期剰余金等	18,489
支出計(C+D)			421,283
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもに人気の遊具を聞き取りして購入したり、工夫して自作するなど、多種多様な遊具の整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特別な苦情はなかったが、利用団体との会議や意見箱を設置し利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適切な管理運営を心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名所	岡崎市六ツ美南部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市 中島東町3丁目8番地6
施設規模	敷地面積：1362.02㎡ 建築面積：499.8㎡
	名称：岡崎市六ツ美南部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市中島東町三丁目8番地6 代表者：委員長 鈴木 伸欣
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施事業

実施事業名	七夕飾りを作ろう ・クリスマス会 ・節分会
	1.あいさつ・説明 2.季節にちなんだ行事活動 3.地域の方と一緒にゲームを楽しむ 4.記念撮影・あいさつ
実施回数	3回
参加人数(人)	214人 (こども：182人、おとな：32人)

(2) 事業実施に対する自己評価

七夕・クリスマス会・節分と季節の行事を地域の方々といっしょに楽しむことができた。特にクリスマス会や節分会では地域の方々がサンタクロースやトナカイ・鬼などに扮して会が盛り上がった。又、クイズやゲームなどもいっしょに行い世代間交流もできた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	347	9,769	482	5,089	14,858

(2) 利用状況に対する自己評価

新型コロナウイルス感染継続に加え冬季にはインフルエンザが流行した。不特定多数の方が利用する施設であるため、できる限りの感染症対策を引続き行ってきて適切な対応ができた。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		406,000
	その他収入 (B)	前年度繰越金・雑収入	77,581
収 入 計 (A + B)			483,581
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	412,453
	(うち修繕費)	※清算項目	133,470
	その他 (D)	当期余剰金	71,128
支 出 計 (C + D)			483,581
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の内外の改善、故障・破損修理・消耗品の購入に費用を充て収支運営することが出来た。本年度は修繕費が超過したが、他の支出内容を精査することにより収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ清潔な環境づくりに努めた

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

例年どおり、連絡ノートを利用団体に用意し活用していただき、利用者のニーズの把握に引続き務めた結果、安全対策・使いやすさ等の改善に結び付けることができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員と連携し連絡ノートを通じて記入された意見には改善できる範囲において速やかに対応した。
マナー・ルール違反の利用者には注意を行い理解していただいた。
会議やノートにより利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市北野学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市橋目町字屋下3番地1
施設規模	敷地面積：1512 m ² 建物面積：499.75 m ²
指定管理者	名称：岡崎市北野学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市橋目町字屋下3番地1 代表者：委員長 市川 康吉
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	北野学区こどもの家ふれいあい事業
実施内容	外部から講師を招きマジックショーを実施し、参加者全員で鑑賞した、その後、バルーンアートを参加者全員で作成し飛ばして遊んだ。
実施回数	1回
参加人数(人)	98人 (こども：65人、おとな：35人)

(2) 事業実施に対する自己評価

予定人数を大幅に超えた参加者があり、保護者も多く参加し、楽しく過ごす時間を持つことができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	319	16,606	480	4,568	21,174

(2) 利用状況に対する自己評価

安心安全な遊び場として、地域や学校等と連携を密にしたことにより、多くのお客が来館した。大人の利用については、地域に広く認知されており多くの住民が利用した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000 ✓
	そのほか収入(B)	雑収入	1,296 ✓
	収入 計 (A+B)		407,296 ✓
支出	直接管理費(C)	人件費、事務費、消耗品費、ふれあい事業費、修繕費	402,258 ✓
	(うち修繕費)	※精算項目	106,700 ✓
	その他(D)	当期剰余金等	5,038 ✓
	支出 計 (C+D)		407,296 ✓
	差引		0 ✓

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の老朽化が進み、計画的に修繕を進めてきたが、本年度は、体育館内部の板壁の修繕に当初予算より超過したが、事務費、消耗品等の支出を抑制し、収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

年2回の大掃除や利用後の清掃などをお願いすることで清潔な環境づくりを努めたことで、利用者も気持ちよく活動できた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもに人気のあるボール、遊具などを補充、購入することで、活発に遊び、友達との輪が広がった。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者からの苦情はなく、適正な管理運営がなされた、利用ノートにコメントを記入していただき、改善できるものに関しては、すみやかに対応した。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市根石学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市欠町字石ヶ崎 50 番地
施設規模	敷地面積：1297.98 m ² 建物面積：499.43 m ²
指定管理者	名称：岡崎市根石学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市欠町字石ヶ崎 50 番地 代表者：委員長 高橋 宏美
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	紙ひこうきを作って飛ばそう
実施内容	学区ボランティアの指導のもと、子どもが作った紙ひこうきで飛距離を競った。
実施回数	1 回
参加人数(人)	人 (子ども：32人、おとな：25人)

(2) 事業実施に対する自己評価

コロナ禍で中止していた、ふれあいの事業を12月に開催。多くの子どもや保護者が参加され、こどもの家に関心を持ってもらえる有意義な行事となった。来年度はもっと盛上げて実施したい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	343	7789	471	5326	13-115

(2) 利用状況に対する自己評価

小学校との連携が盛んになり、こどもの家が「遊ば場」として多くの児童が来館した。大人の利用も地域に広く認知され、本年度も多数の学区民が来館した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入(前年繰越) 101,384	101,384
収入 計 (A + B)			505,384
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	427,909
	(うち修繕費)	※精算項目	82,500
	その他(D)	当期剰余金等	77,475
支出 計 (C + D)			505,384
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

物価高により物品購入には苦慮した。
スノー、特売具、リサイクル貯金など、日頃から情報収集に努める。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

子どもたちが楽しめる、ぬり絵、工作、折り紙などの自作。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

伝言用紙を置いて、利用団体とのコミニを図っている。
子どもたちの遊び、会話などからニーズの把握に努めている。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度は何かもなく、苦情なども無かった。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市緑丘学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市美合町字下長根 28 番地
施設規模	敷地面積：2091 m ² 建物面積：499.01 m ²
指定管理者	名称：岡崎市緑丘学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市美合町字下長根 28 番地 代表者：委員長 三井 巻雄
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家 ふれあいイベント
実施内容	チョークアートに挑戦 (チョークアート作家河村将貴さん指導)
実施回数	1 回
参加人数 (人)	105 人 (こども：86 人、おとな：19 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

- 学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

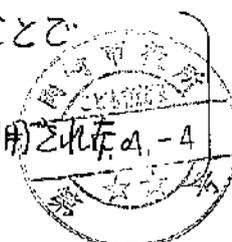
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	358	13,156	720	6,343	19,499

(2) 利用状況に対する自己評価

- 安全なこどもの遊戯場として、指導員や学校と連携を密にしたことで、本年度も多くの児童が来館した。
- 大人の利用については、地域に広く認知されており、多くの学区民に利用された。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000 /
	その他収入(B)	雑収入	22,798 /
収入 計 (A + B)			428,798 /
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	407,280 /
	(うち修繕費)	※精算項目	132,554 /
	その他(D)	当期剰余金等	21,518 /
支出 計 (C + D)			428,798 /
差 引			0 /

(2) 収支状況に対する自己評価

・施設の修理・消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・年2回の清掃活動を実施し、環境美化に努めた。
・利用後の清掃の呼びかけをした。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・利用者会議の開催と利用者ノートでニーズ把握に心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・特に苦情はなかったが、利用者会議・利用者ノートでコミュニケーションを密にし、苦情のない管理運営に努めた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市愛宕学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市伊賀町字地藏ケ入 34 番地 1
施設規模	敷地面積：1566.71 m ² 建物面積：499.67 m ²
指定管理者	名称：岡崎市愛宕学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市伊賀町字地藏ケ入 34 番地 1 代表者：委員長 鍋田 紘一郎
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	あたご学区こどもの家まつり
実施内容	バスケシュートトライかばわとび10回トライ 輪投げ大会 水風船ヨーヨー釣り ふんぶんエテを作ろう
実施回数	1 回
参加人数(人)	113 人 (こども:101 人、おとな:12 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

「あたご学区こどもの家まつり」と題して手作りゲームを指導員で考えて実施した。5つのブースを回り子供達(幼児も含む)は喜んで参加し楽しい時間を過ごすことができ、こどもの家に対する関心を高め理解を深めることができた。また5つのブースにそれぞれ担当者を置いて実施したが参加人数が多く、手のまわらない事があったのは、今後の課題としたい。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	340	5,22	232	2001	7,123

(2) 利用状況に対する自己評価

各月の予定等を掲示し、玄関ホールにも活用し、常に利用状況がわかるようにしているため安心して利用してもらえた。小人利用も平日、土曜日とも多くの児童が来館した。レク室での遊びが盛んなので利用者が安全に利用できるように努めた。

3 収支状況
 (1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入	12,893
収入 計 (A + B)			415,893
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	400,408
	(うち修繕費)	※精算項目	88,000
	その他(D)	当期剰余金等	15,485
支出 計 (C + D)			415,893
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

駐車場北側のり面の昨年度は遺漏所から木が伸びてきたため、小枝落下の防止のため
 伐採を実施し、通学路の危険がなく安心した。
 回廊の女子トイレの入口ドアが強く閉まり、子供達の安全のためドアコーサーを取り直し
 修繕した。
 施設に費用がかかることが出来、消耗品の購入も含め、収支運営することが出来た。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

インフルエンザ等の感染予防のための来館者への検温や手指消毒を促し、安全に利用して頂く
 ように器具の消毒点検等を行ない清潔な環境作りを心がけた。
 利用団体にも分かりやすいポスターや書面で連絡も迅速に行ない安心安全な施
 設利用がしてもらえるように努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体とは、代表者会議を開き、利用者からの意見を聞き、ニーズを把握し連絡
 シートを利用して意見交換した。子供達には、自由に遊ばせ、来館も楽しめるように、人
 気のおもちゃや遊具や本などを聞き取り、充実を図った。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度も特別な苦情はなかったが、利用時の駐車場での騒音など近隣の方々に
 迷惑がかからないよう利用団体にも協力して頂きたい。
 子供達の送迎時に隣接している駐車場(民間)を利用しないよう保護者の方々に
 説明し、今後も苦情がないよう心がけていきたい。
 館外の溝の枯れ草、ゴミ、草など、こまめに清掃するように心がけている。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常磐東学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市米河内町字登り42番地2
施設規模	敷地面積：1788.48㎡ 建物面積：499.81㎡
指定管理者	名称：岡崎市常磐東学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市米河内町字登り42番地2 代表者：委員長 今井 雅伸
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	デコレーションキャンドル作り
実施内容	自由にキャンドルに飾りをつけ 自分だけのステキなキャンドル作り
実施回数	1回
参加人数(人)	58人 (子ども：40人、おとな：15人)

(2) 事業実施に対する自己評価

親子の参加がほとんどで、家族で楽しめた。
多くの学区の人の参加もあり、こどもの家に関心を高めると共に、地域の人々への理解も深めることができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	3574	6307	264	1517	7824

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、指導員や小学校と連携を密にしていることで、多くの児童が来館した。
大人の利用は今年通り利用している。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入	27
収入 計 (A + B)			403,027
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	400,737
	(うち修繕費)	※精算項目	94,600
	その他(D)	当期剰余金等	2,290
支出 計 (C + D)			403,027
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

・施設の修理 消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

・利用者みんなが気持ちよく利用できるよう 使用後の適宜な
清掃への協力を呼びかけ 清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

・子どもに人気の遊具を購入したり、工夫して自作したりするなど
遊具の整備に努め 子どもたちが楽しめるよう心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

・指導員と連携し 利用者ノートに記入された意見には 改善できる範囲に
おこし速やかに対応した。
・バドミントンのネット、卓球台のネットも利用者の要望で購入したり寄付してもらった。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常磐学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市滝町字入ノ谷3番地10
施設規模	敷地面積：1125.14㎡ 建物面積：499.9㎡
指定管理者	名称：岡崎市常磐学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市滝町字入ノ谷3番地10 代表者：委員代表 中根 茂
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家お楽しみ会
実施内容	令和6年12月10日(火) 15:00～ ふれあい事業実施 「ペットボトルで空気砲」
実施回数	計 1 回
参加人数(人)	19 人 (こども：16人、おとな：3人)

(2) 事業実施に対する自己評価

新型コロナウイルスの感染症防止に配慮しつつ 実施することができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	333	2839	498	4253	7092

(2) 利用状況に対する自己評価

新型コロナウイルスの感染症防止に配慮しつつ 施設を利用いただいている。子どもたちは下校後、遊具を使ったり、子ども同士でボール遊びをしたりしてのびのびと利用することができた。また大人の利用団体者も規則を守り、特に事故もなく 有意義に利用することができた。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入 (A)		404,000
	その他収入(B)	繰越金 64885, 利息 46	64,931
収入 計(A+B)			468,931
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 修繕費	460,574
	(うち修繕費)	※精算項目	127,000
	その他(D)	当期剰余金等	8,357
支出 計(C+D)			468,931
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

感染症防止等に留意しつつ、利用者の要望・意見にそれぞれ対応することができた。
また 収支も間違いなく適切に処理することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用団体代表者会議は感染防止等に配慮しつつ、利用規則確認・連絡お願い事項の周知等 徹底することができた。

連絡ノートは常設しており、利用者が気付いたことは都度記入いただいております。指摘内容に速やかに対応することができた。相互理解のため今後とも継続していきたい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者の要望内容は随時現物の確認等を行い、速やかに対応回答することができた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

連絡ノートを設置し、常に問題点を把握するように心がけ、その都度 利用者に速やかに情報を提供することができた。

※ (事業報告書と併せてご提出をお願い) します。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市細川学区こどもの家
施設の設定目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市細川町字長原111番地1
施設規模	敷地面積：1434.2㎡ 建物面積：499.58㎡
指定管理者	名称：岡崎市細川学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市細川町字長原111番地1 代表者：委員長 近藤 勝男
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	バルーンアートとマジックショー
実施内容	クラウン*トムさんによるマジックショー、全員でダンス、ネズミのバルーンアートに挑戦した。
実施回数	1回
参加人数(人)	119人(こども：106人、大人：13人)

(2) 事業実施に対する自己評価

色々なパフォーマンスに子供から大人、最後まで盛り上がり、こどもの家に対する関心を高めるきっかけになった。

運営委員長、事務長、指導員、センター支援員でスムーズに進行することができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合 計	293	15,064	437	4,006	19,064

(2) 利用状況に対する自己評価

安全な遊び場所として、保護者に認識していただき、今年度も多くの児童が来館。

連携を密にし、子供たちが安全に過ごせるように指導した。

大人の利用については、地域に広く認知されており、多くの学区住民による利用があった。

7.4.-4

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入 (B)	雑収入	35,742
収入 計 (A+B)			441,742
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	436,548
	(うち修繕費)	※精算項目	118,979
	その他 (D)	当期剰余金等	5,194
支出 計 (C+D)			441,742
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品購入等に適切に費用を充て収支運営することが出来た。
古くなったロッカー、水筒入れ等々修繕費を超過したが、他の支出内容を精査する事により収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

施設利用に関してわかりやすく書面にし、理解をお願いした。
使用後の清掃の適宜な協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもの遊びを見て、必要とする遊具を購入し、学年を選ばずに遊ぶことが出来るようなものを選んだ。
利用団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

伝言メモに記入された意見や利用団体との会議での要望には、改善できる範囲において速やかに対応した。マナー、ルールなど利用者には理解していただいた。
伝言メモにより利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適正な管理運営を心がけたい

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市小豆坂学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市戸崎町字藤挾 13 番地 41
施設規模	敷地面積：1044 m ² 建物面積：499,21 m ²
指定管理者	名称：岡崎市小豆坂学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市戸崎町字藤挾 13 番地 41 代表者：委員長 山本 幹彦
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	小豆坂ふれあいデー
実施内容	パルティーター・ワイワイ動物園、まぜまぜマシーン みんなで歌おう ・ 野菜小屋 人形劇、 ・ さんぽ ・ 2・13のハコ屋さん
実施回数	1 回
参加人数 (人)	61 人 (子ども：49人、おとな：12人)

(2) 事業実施に対する自己評価

講師を招き、ちょっとした工夫で日用品か他のものに変わる技や
思いやり心を楽しく学べました。学区こどもの家を知ってもらおう機会となり
この事業をきっかけに子供達の来館人数の増加を期待したいです。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	362	11,121	635	6153	17,274

(2) 利用状況に対する自己評価

指導員とセーターの方と連携を密にしていたおき
安心できました。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	雑収入	43,945.7
収入 計 (A + B)			439,457
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、 <u>修繕費</u>	417,604
	(うち修繕費)	※精算項目	95,700
	その他(D)	当期剰余金等	21,853
支出 計 (C + D)			439,457
差 引			00

(2) 収支状況に対する自己評価

私設の修繕、消耗品の購入に費用を充て
運営することが出来た

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

本をたくさん入れたため
子供等が喜んで利用した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用団体に向け連絡帖を作り
ニーズ把握に心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

大きな問題にならないうちに収められた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市羽根学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市羽根町字池下5番地1
施設規模	敷地面積：1148㎡ 建物面積：499.78㎡
指定管理者	名称：岡崎市羽根学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市羽根町字池下5番地1 代表者：委員長 関 浩
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	放課後子ども教室
実施内容	チーム対抗ゲーム（みんなでボール送り、流しろうめん、めくりめくりゲーム） 読み聞かせ
実施回数	1回
参加人数（人）	90人（子ども：80人、おとな：10人）

(2) 事業実施に対する自己評価

チーム対抗ゲームでは、低学年と高学年が協力しあう姿が見られ、大きな声で自分のチームを応援することができました。
普段、ひとり遊びをしている子供も笑顔で参加している姿もあり、今後子供たちの記憶に残るような楽しい時間を作っていけたらと感じました。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数（日）	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	356	17,783	492	4040	21773

(2) 利用状況に対する自己評価

小学校、教育委員会、担当課の協力のあがいで、猛暑続きの夏休みに子供たちが安全に遊ぶお弁当を食べられる場所も確保できたことは、多くの児童が夏休みに来館するまで良かったと思われる。

7.4.4

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		407,000
	その他収入(B)	雑収入	12,654
収入 計 (A + B)			419,654
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	411,154
	(うち修繕費)	※精算項目	(91,915)
	その他(D)	当期剰余金等	8,500
支出 計 (C + D)			419,654
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

老朽化で動きが悪くなっていたドアクローガーの取替がびき不便が解消された。

猛暑対策として水あらい用の消耗品を購入したが災害用にも使用できる。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

倉庫内の利用前、利用後の写真を配布し、整理整頓の協力をお願いした。事故にもつながる重要な件なので今後も徹底していきたい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

利用者の希望により次年度から夜10時までの利用に変更した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

指導員とのコミュニケーションをとり、利用者への連絡は、できるだけ速く対応するように心がけた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市藤川学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市藤川町字一里山北54番地
施設規模	敷地面積: 1269.12㎡ 建物面積: 499.7㎡
指定管理者	名称: 岡崎市藤川学区こどもの家運営委員会 所在地: 岡崎市藤川町字一里山北54番地 代表者: 委員長 本間 徹
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家交流会 手づくり ワークショップ
実施内容	①手づくり工作 割ばし鉄砲、パルーンアート、ストロー飛行機、万華鏡他手づくり ②子ども向け防災体験 ③交通安全体験 衝突体験車、こども免許証 水消火器の体験、防火服着用、消防車乗用体験
実施回数	1 回
参加人数(人)	176 人 (こども: 98 人、おとな: 78 人)

(2) 事業実施に対する自己評価

子供と大人のふれあいを通じて、世代を超えた地域の繋がりを生むきっかけとなった。
学区こどもの家に対する関心を高めると共に、地域の人々への理解を深めることができた。

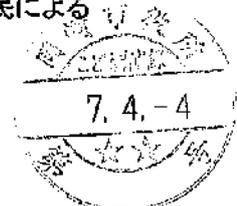
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	305	11,782	279	2,029	13,811

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。
- ・大人の利用については、地域に広く認知されており、本年度も多くの学区住民による利用があった。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	令和5年度繰越金、利息	4,117
収入 計 (A+B)			409,117
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 コロナ対策費、修繕費	405,834
	(うち修繕費)	※精算項目	80,750
	その他(D)	当期剰余金	3,283
支出 計 (C+D)			409,117
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

本年度は施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て収支運営することができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者みんなが気持ちよく利用できるよう、使用後の適宜な清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・子ども達に聞き取りをして、必要な遊具の整備に努め、利用者に気持ち良く施設を利用してもらうことができた。
- ・利用者団体との会議を開催して、ニーズ把握を心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特別な苦情はなかったが、利用者とのコミュニケーションを密にして、今後も苦情のないよう適正な管理運営を心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市常磐南学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市田口町字岩本1番地1
施設規模	敷地面積：1390.73㎡ 建物面積：499.8㎡
指定管理者	名称：岡崎市常磐南学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市田口町字岩本1番地1 代表者：委員長 河合 則夫
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	トムさんと遊ぼうマジックショー
実施内容	・マジックショー ・みんなでマジック ・バルーンアート ・みんなでダンス
実施回数	1回
参加人数(人)	68人 (子ども：60人、おとな：8人)

(2) 事業実施に対する自己評価

事務長、運営委員の皆さま、地域の方に協力して頂き、今回はマジックショーといういつもと違ったパターンでふれあいを行った。指導員の皆さまが計画をあらかじめ下準備をしっかりとし、スムーズに行なう事が出来、多くの子どもたちと楽しんで参加できた。

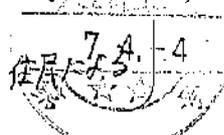
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	346	5967	348	3,285	9,252

(2) 利用状況に対する自己評価

放課後の安全な子どもの遊び場として平日お昼に開放し、長期の開放期間、一日利用の児童が多く現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。
大人の利用については本年度新規に1チーム利用登録が増えより多くの学区住民が来館した。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		404,000
	その他収入(B)	雑収入	2,5412
	収入 計 (A + B)		429,412
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	379,739
	(うち修繕費)	※精算項目	80,516
	その他(D)	当期剰余金等	49,673
	支出 計 (C + D)		429,412
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

破損および不具合を生じている網戸、ブラインドを修繕費として支出した。
又、夏季の気温調整と兼ねる為のホールへの扇風機設置を考え、当期剰余金
として来年度に繰り越すこととした。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が利用に便利と思えるようなことを行い、備品、消耗品を充実させた。
又、皆が気持ち良く利用できる様に利用者全体に使用後の適宜な清掃への
協力を呼びかけ清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

指導員の方々との連携を密にする為、定期的に運営委員長、事務長参加の
会議を行なう、利用に際して不具合が生じないように心がけた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今後も適正な管理運営とする上で利用団体にマナー、ルールの
徹底の協力を呼びかけた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市奥殿学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市奥殿町字石飛 111 番地
施設規模	敷地面積：1214.24 m ² 建物面積：499.8 m ²
指定管理者	名称：岡崎市奥殿学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市奥殿町字石飛 111 番地 代表者：委員長 山口 和則
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	①クラウントムマジックショー ②7#クリスマス会
実施内容	①マジックとバルーンショー、トランプカード遊び ②パン喰い競争、キャタピラーカード返し、風せんわり 子ども 60人 大人 14人 子ども 46人 大人 7人
実施回数	2 回
参加人数(人)	127人 (子ども：106人、おとな：21人)

(2) 事業実施に対する自己評価

平日に行ったが、1ヶ月前からポスター掲示、チラシ配布して、早くから周知を行った為、多勢の子どもや保護者の参加があり、楽しいふれあい事業を行っていくことができてよかった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	336	7,330	349	1,970	9,300

(2) 利用状況に対する自己評価

平日は 30名弱のかほん下校利用児童が来館し、低学年が中心ではあるが、レクレーション室でものびのび遊ぶ児童にも目が届きやすかった。団体の方々にも、夜間利用の空きがない程、有意義に利用してもらった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		403,000
	その他収入(B)	雑収入 繰越金、利息	17,444
収入 計 (A + B)			420,444
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	417,385
	(うち修繕費)	※精算項目	100,800
	その他(D)	当期剰余金等	3,059
支出 計 (C + D)			420,444
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

書類収納キャビネットのガラス扉の破損、レク室網戸の破れで、
修繕費予算を越えてしまっただが、他の支出内容を精査することで収支の
均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

館内外の清掃、整理、整頓、館内の装飾も季節ごとに気を配ったことで
子ども達だけでなく、迎えに来る保護者や利用団体の方からも好評で
やり甲斐を感じた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

館内装飾に刺激を受け、子ども達から折り紙や工作等の製作活動を
要求する声があり、装飾が製作活動の動機付けになったことが嬉しかった。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用団体に関しては、連絡ノートを利用して、コミュニケーションをとることで
不平、不満を持たれることがなかったと思う。
今後も苦情のないよう適正な管理運営を心掛けた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市大門学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市藪田二丁目8番地7
施設規模	敷地面積：1132㎡ 建物面積：499.65㎡
指定管理者	名称：岡崎市大門学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市藪田二丁目8番地7 代表者：委員長 天野 正和
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	大門学区ふれあいフェスティバルマジックショー
実施内容	地域住民と学区こども会とのふれあい活動
実施回数	1回
参加人数(人)	248人(こども:175人、おとな:73人)

(2) 事業実施に対する自己評価

外部からインターテイナーを招き催し物を開くのは初めての試みだったが、子ども会役員の方々の準備がしかりたされてあり滞りなく進行することができた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	257	21289	647	6729	28018

(2) 利用状況に対する自己評価

子どもたちの一般利用、育成センター利用、かかん下校利用なども大変多く、利用団体も毎日利用があり健康づくりに寄与して17名、4
新しく利用希望の方が入れない程なので今後検討していきたい。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		408,000
	その他収入(B)	雑収入	216,880
	収入 計 (A + B)		624,880
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	445,273
	(うち修繕費)	※精算項目	82,400
	その他(D)	当期剰余金等	179,607
	支出 計 (C + D)		624,880
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

前年度剰余金に対する当期剰余金の増減がなく継続的な運営がうまく出来たと思う。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

日々の掃除や整理整頓に努め遊具、おもちゃ書籍など備品などを充実させ、利用者にも物を大切にマナーを守ってもらうことで利便向上に努めた。利用団体とは連絡回線の活用をしている。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子どもたちの希望を取り入れた新しいおもちゃ書籍を購入したが、壊れる物も多く、補充や買い替える物が多かった。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

団体が利用するにあたり、現状では空きがなく、学区の住民から公平ではないとの指摘、意見が寄せられた。
今後の利用には、間に合せるように今後抽選方式は交代で使用するなど、利用者や運営委員会と協議をしていきたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市矢作東学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市矢作町字切戸20番地1
施設規模	敷地面積:1239.09㎡ 建物面積:499.26㎡
指定管理者	名称:岡崎市矢作東学区こどもの家運営委員会 所在地:岡崎市矢作町字切戸20番地1 代表者:委員長 長友泰朗
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1)実施状況

実施事業名	ふれあい事業「スリッパ的入れゲーム」
実施内容	ラインの所に立ち、履いているスリッパを1足ずつ的に向けて飛ばす(1人2回) ゲームに参加した全員に参加賞、的に入ったら賞品も貰う
実施回数	1回
参加人数(人)	479人 こども:297人、おとな:150人(幼児32人)

(2)事業実施に対する自己評価

【 学区こどもの家の周知活動として、地域の方々に関心と理解を深めることができた。 】

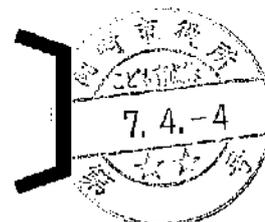
2 施設の利用状況

(1)利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	395	10,833	426	3,920	14,753

(2)利用状況に対する自己評価

【 安全なこどもの遊び場として、小学校との連携を密にし、こどもの家でお事象についても指導員同士常に連絡が取れている。カバン下校利用の児童が増え対応が忙しくなったが大きな怪我もなく安全に見守りをする事が出来た。 】



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
収 入	指定管理料収入(A)		¥404,000
	その他収入(B)	雑収入	0
収入 計 (A+B)			¥404,000
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	¥392,546
	(うち修繕費)	* 精算項目	¥90,088
	その他(D)	当期剰余金等	¥11,454
支出 計 (C+D)			¥404,000
差 引			¥0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕や遊具の補修など適切に指定管理料を充てることができた。来館する児童の増加に伴いロッカーや、水筒置き場についても考えなくてはいけないと思う

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

遊具の置き場の工夫や、ゲーム類の遊び場所を決めて子ども達が取り出ししたり、片付けがスムーズに出来るようにした。
倉庫内も、不用品を処分をしたことで、置き場所が分かりやすくなった

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

日常的に子ども達の遊びを見守る中で怪我が少なく人気のあるボールの補充が出来た
利用団体との連絡はノートを活用し、ニーズの把握に心掛けた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

連絡ノートを活用し、利用団体からの意見や要望等について出来る範囲において速やかに対応した。
内容によっては事務長に連絡をして判断を仰ぐよう心掛けた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市福岡学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市福岡町字深田19番地1
施設規模	敷地面積：1612.3㎡ 建物面積：449.1㎡
指定管理者	名称：岡崎市福岡学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市福岡町字深田19番地1 代表者：委員長 大河内 廣之
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいまつり
実施内容	ヒマナシスターズ演奏会&ゲーム
実施回数	1回
参加人数(人)	45人 (こども：40人、おとな：5人)

(2) 事業実施に対する自己評価

・多くの子どもたちが参加でバンドの生演奏でともに歌ったりダンスをしたりと楽しい良い催しであった。

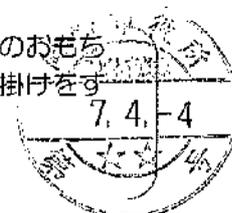
2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数 (日)	小 人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合 計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合 計	357	11,455	317	2,338	13,793

(2) 利用状況に対する自己評価

・大勢の利用がある場合でも遊びを中止するのではなく(制限は最小限)図書室のおもちゃを増やしたりレク室のコート利用を予約制にする等、工夫、事故防止、注意声掛けをすることで大きなケガ(人)を出すことなく無事に年度を終えることができた。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		405,000
	その他収入(B)	雑収入	32,701
収入 計 (A + B)			437,701
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	418,147
	(うち修繕費)	※精算項目	87,240
	その他(D)	当期剰余金等	19,554
支出 計 (C + D)			437,701
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修繕・修理等、消耗品の購入等に適切に費用を充当して収支運営をすることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・施設周りの樹木の剪定や草取り、除草剤の散布を行った。
- ・年末の大掃除を利用団体及び運営委員の所属団体より多数の参加を得て実施した。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・利用団体の中には子供の成長に伴い、施設利用を止める団体もいる中で新規の利用団体の登録もあり学区内にこどもの家の存在を知らすことが出来た。
- ・施設の利用がない時には近隣住民が必要な時に臨時駐車場として貸し出した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・カバン下校の子ども親(外国人)への対応に苦慮することがあったが大きな苦情もなく運営できた。

令和6年度事業報告

公の施設名称	岡崎市大樹寺学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市井ノ口町字片坂13番地
施設規模	敷地面積：1555.72㎡ 建物面積：499.78㎡
指定管理者	名称：岡崎市大樹寺学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市井ノ口町字片坂13番地 代表者：委員長 浅井 誠司
参加人員	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	大樹寺っこふれあい祭り
実施内容	バルーンアート（ふうせんで動物、雪だるま等） ゲーム（ボール入れ、輪投げ等）
実施回数	1回
参加人員（人）	34人（こども：22人、大人：12人）

(2) 事業実施に対する自己評価

- ・バルーンアートは、ふうせんを使ったアート作品で活動している、ボランティア団体の協力を得て実施し、大いに子供達が盛り上がった。
- ・保護者にも評判となり、こどもの来館率も上昇した。
- ・ボランティア団体との交流の輪が広がり、子供達の言葉使いや礼儀が芽生えた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数 (B)	
合計	322	4,498	632	6,992	11,490

(2) 利用状況に対する自己評価

- ・指導員のきめ細かな管理により、子供達が安心して、遊べる遊び場が確保されて、4、4いて、多くの子供が来館し、外国の子供も進んで参加している。
- ・利用者団体とは、努めて意思疎通を計り、「すぐやるこどもの家」を目標に施設の修繕や団体からの要望事項を受けて、積極的に改善に努めている。

3 収支状況
 (1) 収支状況

	項目	内容	決算額 (円)
	指定管理料収入 (A)		405,000 /
	その他収入 (B)	雑収入	8,701 /
収入 計 (A + B)			413,701 /
支 出	直接管理運営費 (C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	406,319 /
	(うち修繕費)	※清算項目	90,750 /
	その他 (D)	当期剰余金等	7,382 /
支出 計 (C + D)			413,701 /
差 額			0 /

(2) 収入状況に対する自己評価

- 夏場のクーラーの効きが悪いことがあり冷気を効果的に循環させるため、扇風機の購入に踏み切ったものの、修繕費を超過したため、管理費の支出内容を精査することにより収支の均衡を図ることができた。
- 適切な各項の支出運営を行い、健全な収支の均衡を図ることができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- 施設に発生した「セアカゴケグモ」に際しては、即時、注意文書で団体に注意喚起すると共に即時、殺虫剤により、徹底駆除を実施した。
- 施設の器具は、常に点検を行い、安心、安全に活動していただくことを常に考え、利用者の要望に添えている。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- 常に子供に人気のある図書、遊具、ゲームをリサーチして、その中から子供達の健全な発達に寄与でき、子供達に人気のあるものを優先的に選定している。
- 常に利用者には、施設、器具を大切に管理するように指導しているが、修理できる物は、出来る限り修理し、修理出来ない時に限り、部品や器具の購入に努めている。

(3) 苦情対応に対する自己評価

- マナー、ルール違反については、その場で毅然とした態度で注意し、後日発覚した場合は、文書、口頭により注意喚起を行い、健全な管理運営に努めている。
- 年2回の会合に際して、利用者との情報交換を実施している。
- 常に利用者との意思疎通を大切にして、利用者との苦情の発掘に努め、把握した苦情は、誠意を持って解消し、もって、「明るく開かれたこども家」を目指して活動している。
- 常に指導員を意思疎通を共有して、必要により会合により、再確認をしている。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市秦梨学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内における子どもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする
施設の所在地	岡崎市秦梨町字世土田20番地1
施設規模	敷地面積: 2,056.94㎡ 建物面積: 499.95㎡
指定管理者	名称: 岡崎市秦梨学区こどもの家運営委員会 所在地: 岡崎市秦梨町字世土田20番地1 代表者: 委員長 天野 博之
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日

1. 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	こどもの家ふれあい事業
実施内容	・受付 ・景品くじ引き、お菓子のつかみ取り ・大掃除 ・ファミリーバドミントン ・ドッジビー ・記念品贈呈(卒業生) ・お菓子配布(参加児童)
実施回数	1回
参加人数(人)	35人(こども:26人 おとな:9人)

(2) 事業実施に対する自己評価

本年度は新型コロナウイルスも5類になったので、通常通り、ふれあい事業を実施することができた。市のスポーツ推進で推奨されているファミリーバドミントンの体験もでき、楽しく過ごすことができた。

2. 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A) + (B)
			回数	人数(B)	
合計	273	2,091	45	391	2,482

(2) 利用状況に対する自己評価

小人の利用については年々学校の在校生が減っている状況から残念ながら利用者も減ってきている。指導員からもこどもの家に遊びに来てもらえるよう声掛けをしたり、お楽しみ会や新しい用具を取入れる工夫などして、積極的に利用者を増やすよう努力した。

3. 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
	指定管理料収入(A)		402,000
	その他収入(B)	雑収入 前年度繰越金	27,900
収入計(A+B)			429,900
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 修繕費	421,060
	(うち修繕費)	※清算項目	(89,210)
	その他(D)	当期剰余金等	8,840
支出計(C+D)			429,900
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・施設の修理・設備、消耗品の購入等に適切に費用を充て、収支運営することができた。
- ・本年度はレク室の網戸と戸車の修繕、及び老朽化した図書室の本棚を交換して、ほぼ予算通りに収まり、収支の均衡を図ることができた。

4. その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・本年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防対策として、日々施設内の消毒を実施した。
- ・利用者が気持ちよく利用できるよう日々清掃に心がけ、清潔な環境づくりに努めた。
- ・施設内の遊具類のレイアウト変更を行い、児童が使いやすいように改善できた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・放課後行事としての工作材料に予算を充て、年間を通じて季節を取り入れた作品作りを楽しく実施することができた。
- ・少人数でも遊べるものを購入したり、工夫したりして多種多様な遊具の整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・子ども同士のトラブルはほとんど無かったが、健康状態やこどもの家で過ごした内容について対応した指導員がその都度、保護者に伝えることで、こどもの家が安心安全であるのご理解していただくよう努めることができた。
- ・利用団体の利用については特別な苦情はなく、利用日の確認等は運営委員長が直接窓口となり、電話等で常にコミュニケーションを取っているため、今後も適正な管理運営を心掛けたい。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市三島学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市明大寺町字仲ケ入12番地
施設規模	敷地面積：2446.4㎡ 建物面積：499.13㎡
指定管理者	名称：岡崎市三島学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市明大寺町字仲ケ入12番地 代表者：委員長 杉本 知治
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい事業「面白いマジックをたのしもう」・新聞工作
実施内容	南マジックによるマジックショーを開催 ・ドライアイスの空気砲、本物の鳩をうさぎに変える等 身近な新聞紙を使ってスリッパなどの折り紙工作を実施
実施回数	1回
参加人数(人)	79人(こども:71人、おとな:8人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもの家では初めてのマジックショーでこども達も大変興味を持った内容となった。
本物の鳩やうさぎと実際にれあうことや、ふだん体験できないような経験ができ、とても有意義な時間が過ごせた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	291	13,028	312	2,716	15,744

(2) 利用状況に対する自己評価

こどもの安全な遊び場として遊具の点検、館内の清掃に心がけている。2学期以降、かばん下校の人数が減少したが、今年になり来年度のかばん下校の問合せが頻繁にあり、確実に利用人数が増えると思われる。



3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入(A)		406,000
	その他収入(B)	社教 前年度繰り越し	37,002
収入 計 (A + B)			443,002
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、管理費、 ふれあい事業費、修繕費	416,399
	(うち修繕費)	※精算項目	83,164
	その他 (D)	当期剰余金	26,603
支出 計 (C + D)			443,002
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修繕、消耗品の購入等に適切に費用を充て、適切に収支運営することができた。
劣化により修繕が必要なものが増えつつあり、中長期的な予算計画が必要。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者が気持ち良く利用できるように使用後の適切な清掃、利用団体による年末の大掃除により、清潔な環境づくりに努めることができた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

こどもたちの安心、安全な遊び場となるように館内外の点検を怠らず、必要に応じて修理をし、対応した。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

利用者の問合せや要望には、小学校との密なコミュニケーションを取りながら真摯に対応し、苦情もなく過ごすことができた。

令和6年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市恵田学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市恵田町字三月ケ入71番地1
施設規模	敷地面積：885.35㎡ 建物面積：499.75㎡
指定管理者	名称：岡崎市恵田学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市恵田町字三月ケ入71番地1 代表者：委員長 岡田 益夫
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあい収穫感謝祭
実施内容	社教委員会と共催 小学校の農園で収穫したもち米でちびねをいれ、もち脈汁などこども、大人もおいしく頂戴した
実施回数	1回
参加人数(人)	150人(こども：50人、おとな：100人)

(2) 事業実施に対する自己評価

こどもと大人のふれあいを通じて、世代を超えた地域の繋がりを生みきっかけとなった。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

	利用日数(日)	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数(B)	
合計	271日	3,563人	34回	409人	3,972人

(2) 利用状況に対する自己評価

安全なこどもの遊び場として、現場の指導員や小学校と連携を密にしたことで本年度も多くの児童が来館した。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
	指定管理料収入(A)		402,000
	その他収入(B)	雑収入	122,458
	収入 計 (A + B)		524,458
支 出	直接管理運営費(C)	人件費、事務費、消耗品費、 ふれあい事業費、修繕費	368,066
	(うち修繕費)	※精算項目	102,102
	その他(D)	当期剰余金等	156,392
	支出 計 (C + D)		524,458
	差 引		0

(2) 収支状況に対する自己評価

施設の修理、消耗品の購入等に適切に費用を充て
収支運営する事ができた。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

利用者の皆さんが気持ち良く利用できるよう、使用後の適宜な
清掃への協力を呼びかけ、清潔な環境づくりに努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

子ども人気の遊具を揃え取りに購入したり、工夫の自作したり等、
多種多様な遊具の整備に努めた。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

特別な苦情はなかったが、会議メモートにより利用者とのコミュニケーションを
密にして、今後も苦情のない様適正な管理運営を心掛けたい。

令和 6 年度事業報告書

公の施設名	岡崎市六ツ美西部学区こどもの家
施設の設置目的、役割	学区内におけるこどもの健全育成と、学区住民の健康づくりを目的とする。
施設の所在地	岡崎市赤浜町字道本 2 1 番地 1
施設規模	敷地面積：2108㎡ 建物面積：499.5㎡
指定管理者	名称：岡崎市六ツ美西部学区こどもの家運営委員会 所在地：岡崎市赤浜町字道本 2 1 番地 1 代表者：委員長 太田 雅夫
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

実施事業名	ふれあいまつり 令和 6 年 10 月 17 日 (木) 15:30~16:30
実施内容	①運営委員長挨拶 ②ルールと進行説明 ③ゲーム (輪投げ・ボールダーツ・魚釣り) クラフト貯金箱作成 ④景品配付
実施回数	1 回
参加人数 (人)	130人 (こども:111人 大人:19人)

(2) 事業実施に対する自己評価

クラフト貯金箱は、運営委員さんに作成補助をお願いし、児童も楽しんでいて助かりました。
全てのゲームに景品をつけたので、児童も楽しんで参加していました。

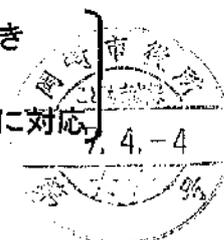
2 施設の利用状況

(1) 利用状況 4月～3月末まで

	利用日数	小人 利用人数 (A)	大人利用		利用人数 合計 (A)+(B)
			回数	人数 (B)	
合計	326	19,049	592	6,184	25,233

(2) 利用状況に対する自己評価

入館時の手洗い・消毒の徹底と土曜日に遊具・施設内消毒は引き続き行っています。
レク室入り口に利用団体用のお知らせ・お願いボードを設置。敏速に対応出来る様になりました。



3 収支状況
 (1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収入	指定管理料収入 (A)		408,000
	その他の収入 (B)	雑収入 前年度より繰越金・積立金	29,867
収入 計 (A+B)			437,867
支出	直接管理運営費 (C)	人件費, 事務費, 消耗品費, ふれあい事業費, 修繕費	403,908
	(うち修繕費)	※精算項目	127,602
	その他 (D)	当期余剰金等 次年度繰越金	33,959
支出 計 (C+D)			437,867
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

- ・図書室の修繕に特化して、環境を整えました。
- ・修繕費の予算8万円以上により返納金0円
- ・ふれあい事業の景品・飾りつけに有効活用しました。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

- ・センター児童が、WBGT値でこどもの家利用ができない日が多くなったので人数を決めて、図書室で遊ばせました。
- ・利用団体が増えた為、事務長と頻繁に連絡を取り合い、クレームやルールの徹底など、即座に対応しました。
- ・花壇に柵やガーデンライトを設置し、侵入防止・安全対策をしました。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

- ・こどもの利用人数が増えたので、新しいおもちゃを購入して、図書室で遊べる様に工夫したり、常に子どもの読みたい本を購入しました。
- ・放課後こども教室 ボランティアとして、こども達が楽しめる季節の工作・行事等を行い、こども達から好評を得ることが出来ました。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

- ・レク室入り口に利用団体用のお願い・お知らせボードを設置し、敏速に対応できるようになりました。
- ・育成センターが2館のため、センター支援員と報告・連絡・相談に努めました。
- ・ケガ防止のために、指導員と支援員のレク室立ち位置を決めました。